

北海道大学の大学院時代に大西明先生にお世話になりました。
相対論的平均場理論を用いた高密度核物質、中性子星内部のハイペロンの発現、AMDを用いた $12\Lambda C$ の構造を研究しました。

大西明先生(以下、大西さん)は優しく、面倒見のいい方でした。
大学院時代は大西さんにおんぶにだっこで、
大西さんが指導した学生のうち、私は最もできが悪かったと自負しております。

私がどんな学生だったかという、例えば、
研究室のHPに板垣さんの「だじゃれ集」を載せていました。
「ツタンカーメンの拙い仮面」
なぜかこれだけは覚えています。
エジプト人が聞いたら怒りそうです。

ゼミの際は、こんな感じでした。
一色「あれ？ これってこういう意味なんですか？」
大西さんは人差し指を額に当てて考えていたかと思うと、ホワイトボードにおもむろに数式を書き始めます。
ずっと計算した後にこう言うのです。
大西「こうなったでしょ？」
合川、鈴木、奥田、一色「はい…」
反論しようがありませんでした。
大西「この分野をやるんだったら、40Kが人類の体内被曝の主要な原因だってのは覚えておこう」
合川、鈴木、奥田、一色「はい…」

一色「お子さんと遊戯王カードで遊んでいるんですか？」
大西「そうなんだよ。子供のデッキの方が強いけど、頭を使えば何回かに1回は勝てるんだよ」
当時、研究室で遊戯王カードに一番詳しくあったと思います。

9. 11事件の際、大西さんはアメリカ出張中でした。
研究室の皆が心配する中、チャットが通じました。周りの何名かが集まってきました。
一色「大丈夫ですか？(ローマ字)」
大西「大丈夫だよ(英語)」
一色「よかったです(ローマ字)」
大西「もうすぐしたら帰る。そういえばあれってやった？(英語)」
一色「(チャットから)exit」

ご無事で何よりでした。

大西「一色くーん」

一色「なんですかー」

こういった形で私が注意される漫才のようなやりとりを研究室の皆は微笑ましく眺めていたと思います。

大西さんは学生時代にトランペットを習いに行きました。

そのトランペットの先生が大西さんの奥さんになりました。

一色「トランペットを習いに行けば奥さんが見つかるんですね」

大西「そうだな！ 師匠を口説くのはいいんだよ」

一色「そうですかぁ」

大西「弟子を口説くのはダメだけどね」

何がダメなのか分かりませんが、大西さんは師匠を口説いたことに誇りを持っていたようです。

そんな私は、フルートでも習いに行けばよかったと思いました。

そんなこんなで、なんとか大学院を卒業でき、学位を頂けたのは大西さんのおかげです。

私は、少年時代の経験から「なんで人は生きていけないといけないのだろう？」と考えました。

哲学は、性善説や性悪説のように何でも適当に主張することができるものだと感じました。

なので、物理から出発して思想に到達するような理論を構築したいと思い、物理を専攻しました。

ええ、邪道でした。

大西さんが亡くなられた後、

「生き方を科学する」というブログにまとめました。

「どう生きればいいのかを科学的に考察する」という記事が一応の結論になります。

本当は、大西さんとこれについて語り合いたかったんだけどなあ。

物理じゃないから、あんまり興味を示してくれなかったかもしれないけど。

大西明先生のご冥福をお祈り申し上げます。

一色 昭則 (IPTech 弁理士法人)